



春色英對  
口  
語  
武編  
中

13 遠  
870  
5





遠13  
P40  
心

春色英對暖語卷之五

梅おき拾遺別傳

江戸 為永春水著

第九回

明治三六年  
十月十八日  
購求

モシ着且ねのねるおまを以寛ドまこと何でも多  
 備しおを者とおまをさうまうこま 考下二をねるねる  
 おわしと氣にくるまを足このサ 後イヤねるおねらんよ  
 お目あけつものつめ川で持てあうまうかま及まの遠の  
 おひとぞんじまはく















































お決のさし換せとびしのを見付らまはし  
お決のさし換せとびしのを見付らまはし  
お決のさし換せとびしのを見付らまはし

お決のさし換せとびしのを見付らまはし  
お決のさし換せとびしのを見付らまはし  
お決のさし換せとびしのを見付らまはし

お決のさし換せとびしのを見付らまはし  
お決のさし換せとびしのを見付らまはし  
お決のさし換せとびしのを見付らまはし























Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in vertical columns on both pages of the manuscript. The right page contains approximately 10 lines of text, while the left page contains approximately 12 lines. The script is dense and difficult to decipher without a key or context. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.



多岐のついでに... かくも思ふが命も捨てる... 女流の流し... かくも思ふが命も捨てる... 女流の流し... かくも思ふが命も捨てる... 女流の流し...

多岐のついでに... かくも思ふが命も捨てる... 女流の流し... かくも思ふが命も捨てる... 女流の流し... かくも思ふが命も捨てる... 女流の流し...











